へき地・小規模校と地域の連携

宮崎県教育庁南部教育事務所
教育推進課　指導主事　加祥　耕之輔

私は、小学生時代を全校児童６０名ほどの小規模校で過ごしました。自然がとても豊かな地域で、森林や河川、田畑に囲まれ、初夏には溢れんばかりの蛍が飛び交い、冬にはあたり一面が雪に覆われ神秘的な銀世界へと姿を変えます。それから、忘れられない通学路・・・。私の通学路は、アスファルトで舗装された県道ではなく、いわゆる山道でした。県道は自動車が通り危ないからという理由でした。薄暗い森の中や田んぼのあぜ道も通りながら、約２㎞の道のりを歩いて登下校しました。でも私が５年生の頃に、通学路は自動車の通る県道へと変更されました。それは、山道で頻繁にイノシシと遭遇するようになったからです。危険なのは自動車かイノシシか。

私の生まれ育った町では、秋に大きなお祭りがありました。平日の日中に開催され、町にある全ての小中学校は午前中で授業を終え、午後からは、全ての学校の児童生徒が学校から直接お祭り会場に移動し、お祭りを楽しみました。会場には各地区で出している出店が立ち並び、この日ばかりは、好きなものを買って飲食することが認められ、ステージのイベントにも自由に参加することができました。

そんな自然豊かで活気のある町でしたが、少子化、過疎化が進み、私が通っていた小学校は学校の統廃合により、2004 年に閉校となりました。古い木造校舎ではありましたが、私の父も同じ校舎で学んでおり、親子２代でお世話になった思い出の校舎がなくなったのは、やはり寂しいものです。

さて、先日学校訪問で管内のある小規模校に訪問させていただきました。学校では小規模性、地域性を活かした様々な教育活動に取り組まれていました。他の小規模校と連携し、運動会や立志式、合唱コンクール等の行事を合同で開催することにより、他校の小中学生との交流の場が設定されていました。また、その学校は特認校制度を有しており、生徒の大半が校区外から通っていますが、地域の行事に生徒が参加したり、体育大会などの学校行事に地域の方が来られたりしながら、地域の方々との積極的な交流をとおして、ともに学び、生徒は自己有用感を感じながら、コミュニケーション能力の向上が図られていました。地域の方からすれば、校外から通う生徒も地元の生徒と同じく、地域に元気を与える存在として温かく迎えられていました。

この数年で、GIGA スクール構想により学校では当たり前のように ICT が活用され、授業での活用はもちろん、複数の学校同士をリモートでつなぐ遠隔授業等の取組も今ではめずらしいものでありません。小規模校の課題であった少人数で固定化された人間関係のもとで行われる教育から、少人数の強みを生かした教育へと変化しているように感じます。

私自身、小規模校で教育を受けましたが、指導主事として改めて学校を訪問すると、そこに関わる教師や地域の方々の様々な想いがあって、より望ましい教育が展開されていることに気付かされます。教育行政の立場として、先生方や地域の方々とともに、へき地・小規模校の教育の更なる発展に努めて参ります。

最後になりましたが、へき地・小規模校で児童生徒に寄り添いながら教育活動に邁進されている先生方や、児童生徒を支えてくださっている地域の方々に敬意を表しますとともに、今後の更なる御活躍を期待しております。